

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月20日

【評価実施概要】

事業所番号	0370600447
法人名	社会福祉法人 立正会
事業所名	グループホーム けいあい
所在地	岩手県北上市大堤西一丁目2番10号 (電話) 0197-81-5225

評価機関名	財団法人 岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号		
訪問調査日	平成20年10月7日	評価確定日	平成20年11月20日

【情報提供票より】(20年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年 2月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	5人, 非常勤 3人, 常勤換算 6.08人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	15,000~16,500 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000円	

(4) 利用者の概要(9月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 85.4 歳	最低	74 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 立正堂医院 おいかわ歯科クリニック
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

新興住宅地に立地し、隣接して同法人の特別養護老人ホーム、デイサービスセンター等の施設があり、連携した取り組みがなされている。また、医師でもある法人理事長が経営する医院とは、非常時には即応できる体制が整っている。施設内は明るい雰囲気が感じられ、利用者同志、利用者と職員が楽しそうに笑顔を浮かべながら会話が交わされている。食堂や居間はよく整備されており、ゆったりと生活ができるようになっていた。介護計画への取り組みは、利用者や家族の意向や希望を取り入れられるよう、全職員で時間をかけて作成された計画を家族に送り、面談のうえ同意を得るなど、工夫をしている。家族との関係も良く、職員もチームワーク良く笑顔で明るいグループホームを目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価を受けて、運営推進会議、職員会議等で結果報告の上、課題を共通認識する中で取り組んでいる。地域で行われる文化祭を参観していたことから一歩踏み出して展示コーナーを設けるなどして作品を見てもらう方向で取り組まれている。更に地域で行われる行事への参加の仕方について工夫されることを期待する。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価、職員個々の自己評価を踏まえグループホーム全体としての問題点を共有し改善と一層のサービスの質の向上に努力している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、利用者のご家族、法人評議員、民生・児童委員、ボランティア関係者、学識経験者、地域包括支援センター職員などに出席いただいている。ホームの運営、利用者の暮らしを中心にホーム側から報告すると共に、毎回テーマを設定して協議をいただき、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族との関係づくりを大切にしており、毎月1回以上、利用者のご家族にホームに来所いただき、暮らしについての説明やホーム内の参観、金銭出納簿の内容確認などを行っている。「家族懇談会」を実施しており、相談、苦情、要望などを聞き取り、利用者、家族、職員の相互理解に努めている。ケアプランづくりでは家族との面談を必ず持ち、事前にプランを確認してもらい、その意向を必ず反映できるようにシステム化している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域から2名、ボランティアから1名、家族会から2名、学識経験者から1名でオンブズマン制度を設け、話し合われた内容について職員会議で内容を検討し、改善に役立てている。地域との連携の窓口にもなっている。近隣の世帯で作られている地域防災協力会があり、防災とホーム利用者との関係について協力を呼びかけている。文化祭や運動会などに参加することを通して地域との交流に努めているが、地域の一家庭という視点から地区活動への参加について、更にひと工夫されることを望む。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な生活環境と利用者、職員との相互の信頼関係の中での自立生活の支援、家族との絆を深め、地域の中のホームを確立するべく理念を掲げている。①家庭的な環境づくり②相互の関係づくり③自立生活に向けての援助④地域住民との関係づくり。特に家庭的な環境づくりと地域の人々と安心して楽しく生活できる関係づくりに取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	週計画、月計画、年間計画などの計画の検討会議、職員会議などの場において、改めて理念を確認し合い共有化に努めながら日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	母体法人の敬愛園が、グループホームを含めて地域の自治会に加入している。近隣の地域住民24世帯で構成する地域防災協力会を作り、非常災害時には協力をいただく体制ができている。地域ボランティアの受け入れ、子供会資源回収への協力、地域で行われる文化祭、運動会、学習発表会などにも参加している。	○	地域との交流を大切にし、いろいろな点で地域交流に努めていることが具体的に見える。そのことを踏まえ、ホームが地域における一家庭(家族)であるとの視点からのあり方と取り組みについて、自治会の一員として地域住民と一緒にできることはないか、老人会などに加入し、ふれあう機会を作るなど、更なる工夫を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年に1回、全職員で自己評価を行い、評価を通して解決すべき課題を職員が共有することによって、サービスの質の向上に資する取り組みに努めている。また外部評価の結果を会議やミーティングに報告し改善に向けて具体案の検討や実践につなげるための努力をしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を概ね2ヶ月に1回開催している。グループホームの状況を報告すると共にその時々の問題をテーマとして話し合い、その中から出て来た提言を具現化しようとしている。委員は、利用者の家族、地域代表、行政代表、福祉関係者など7名で構成され、会議録や推進会議設置・運営要綱も整備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者、保健師、福祉事務所などと連携を図り、協力をいただいている。スプリンクラーの設置等、具体的に連携をとりながら実現しようと努めているが、市担当者の異動などもあり、担当者との問題を共有することは十分とは云えないが、今後共に取り組んで行こうとしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	報告の場として年1回の家族会があり、運動会、敬老会、文化祭等の行事についてもお知らせしている。毎月、広報誌を家庭に配布しホームの生活の様子を知らせており、併せて金銭出納報告を行っている。必要に応じて電話などで報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	諸行事の案内を家族に往復葉書で出し、その返信欄には意見、要望等を記入するように工夫している。ケアプラン作成時には家族との面談を取り入れたり、地域の民生委員、ボランティアの協力員、学識経験者、福祉関係者などで構成する福祉オンブズマンの意見を参考にするなど、多様な方法をとっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者、ご家族への信頼関係を築くためにも馴染みの職員が対応することは重要と考えており、やむを得ず職員が離職や異動する際は、あらかじめ早めに新しい職員を配置できるよう配慮し、前任者が去る前に利用者との馴染みができるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り外部の研修に出る機会を作っている。年間の計画を立て、全ての職員に研修の機会を確保しており、参加しやすい環境づくりが図られている。外部研修の伝達を通した内部の研修にも力を注いでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県のグループホーム協会、地区のグループホーム組織及び東北地区の県外組織が主催する研修や情報交換の場を通じた交流に心がけており、研修内容を全職員に報告して情報の共有化を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所希望者にはホームの生活を理解してもらうため、本人及び家族の希望により、日帰りや宿泊など体験利用を実施しており、納得の上で安心して入所できるように工夫している。具体的な例として、2泊の体験利用を経て入所した例があるが、入所後は特に問題も無く、ホームの生活に溶け込んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として、調理、食事、掃除、入浴、お茶会等を通して利用者から学ぶ立場も認識し、支えあひながら支援している。つかず、はなれずに支え合う関係をつくりながら、1日の中で向き合う時間を持つようにすると共に、職員のチームプレーを大切にしている。また、介護度に応じて役割分担をし参加意識の高揚に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話や介助など、日常生活の場を通し、意思の把握に努めるようにしている。意思表示をしたい利用者は多いが思うように表示できていないので、職員が察知するようにしており、食事、入浴、楽しみ会の実施等きめ細かく把握して日々の生活のケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成については計画案を事前に家族に示し、家族面談を経て、家族の意見や意向を計画に反映させるようにしている。また、福祉オンブズマンにも意見を求めるよう努めており、最終的に職員によるケアカンファレンスによって共有化をはかり計画作成に当たっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回を基本に計画の見直しを行っており、職員全員で作成し、さらに家族と面談し家族の意向を組み入れて現状に即した新たな計画を作成している。月例の職員会議では常にケースの見直しを行うと共に必要に応じて利用者、家族等との話し合いに即応できるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用希望者に対する日帰り体験入所や、公民館の高齢者学級「認知症を知りたい」への講師派遣などを実施している。ただし、夜間における支援は困難である。本人やご家族の意向を聞いて要望に応じた対応を柔軟に生かす方向で支援が行われており、ホームや病院から退所、退院した後どうしたらよいか、老人保健施設があわないといった方等との相談に応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を大切に受診支援を行っている。かかりつけ医で受診されている利用者もいるのでその医院と連絡を取り合って適切に医療が受けられるように支援している。利用者、家族の希望で、協力医による2週に1回の来所による定期検診がある。また、家族の協力を得てそれぞれのかかりつけ医の受診を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向を大切に考え看取りケアを行うこととしている。同一母体である特養老人ホームと連携しながら、その支援のあり方についての職員研修で意識を共有しつつ取り組んでいる。ごく最近、終末ケアを行った実績がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては、基本的な情報については職員間で共有すると共に記録等の保管場所に注意している。利用者一人ひとりのプライバシーの把握に努め、利用者に対する言葉遣いや接遇について留意し誇りやプライバシーを損ねないように留意し、支援に当たっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのその日の状況をよく見極めながら、利用者のペースを最大限尊重するように努めている。利用者それぞれのペースにあわせて行動できるよう配慮しており、食事をとる時間もそれぞれ違うが決して急がせるようなことはしていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者、職員が共にテーブルを囲んで楽しく食事できる雰囲気づくりを大切にしている。調理や片づけは、できるだけ利用者にも参加してもらっているが、身体的な状況から参加できる方が限られてきている。調理の場等では一緒に作業する場面づくりなど工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は1日おきに14:00～15:00過ぎまでの時間帯としている。介護度の進んでいる利用者には職員2名で介助しており、気の合った同士の入浴もできる。可能な限り利用者の意向に配慮しているが、自由入浴は職員体制と安全面から困難である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その時々々の身体状況に応じて、食事時や掃除などの日常生活での役割活動をすると共に、趣味や特技を活かせるような個人的な取り組みやグループによる活動が行なわれており、得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。職員も一緒になって活動支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望やその時の様子などから近くの公園などに散歩する。また、月・水・金は食材の買い物に職員と一緒に出かけるなどしている。また、ふるさと訪問など随時行なっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りの方法を徹底し、利用者一人ひとりの気分や状態をきめ細かく把握することで、日中は玄関に鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。職員が1～2名で見守りが不十分になる場合は玄関のチャイムをセットする。各個室は内外からロックできるようになっており、利用者が中から自分でロックできる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	グループホームを含む母体法人の防災委員会が設けられており、グループホーム自体にも自衛消防隊が組織され各職員の役割分担が明確になっている。また、防災委員会の企画により、年2回昼と夜間に利用者とは避難訓練を行っている。防災協力員と連携して防災訓練への協力も得ており、地震マニュアルも作られ対応の仕方や連絡体制も整っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体法人の栄養士に献立表のチェックを受け栄養バランスについて助言をいただいている。水分摂取については、毎日のチェック表に記録し水分量の確保の支援に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりした空間が配慮された構造になっており、壁面の絵、写真などの掲示物もすっきりし、全体に清潔感がある。天井の吹き抜け、12帖の和室、居室に囲まれた中庭など、中庭の樹木、プランターに植栽された季節の花は利用者に季節感をかもし絶好の場である。ご飯の炊ける匂い、茶碗の洗う音、テレビの視聴、窓から景色の移り変わりが眺望できるといった五感や季節感を意識的に採り入れる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室への私物の持ち込みは自由である。使い慣れたテーブル、いす、写真、位はいなどを持ち込んで自分の部屋を作りあげており、利用者の居心地のよさに配慮している。		